

あなたはこんな時
最後まで保護者になつてくれますか？

第6回 あなたは本当に動物愛護家と言えるでしょうか？（1）

古木 昌代

世の中には愛犬家・愛猫家を自負している方は大勢いらっしゃるでしょう。しかし本当に動物の立場にたって彼等愛しているのでしょうか？あなた自身のエゴと偏見で動物を可愛がっていませんか？そしてただ単に好きというだけでなく、逆境にある動物を発見して可愛そうだと感じたら、あなた自身が救いの手を差し伸べているのでしょうか？

アークには「家の裏に子猫が捨てられているので保護してほしい」「どこそこの家では犬を虐待している。何とかして」というような電話が数多くかかってきます。中には夜10時11時に電話をしてこれ、公園に住みついている犬を保健所が捕獲しに来るから今すぐ引き取りに来て、と云われる方もあります。アークでは出来る限りのことは致しますが、そのすべてに対応できるわけではありません。一応、緊急用の電話として7～21時まで1回線用意はしておりますが、24時間体制で待機しているわけではないのです。夜間はスタッフはおりませんし、昼間でも各々が昼食もゆっくりとれない位の仕事をかかえています。警察や消防署のように電話1本で即出動することは、残念ですが現在のアークでは不可能なのです。



本当にその動物を助けたいと思われるのなら、アークに電話をされる前に自分の問題として考え、まず自分が率先して動いて戴きたいと思います。「犬を保護してやりたいがどうすればよいかわからない」とか「保護するためにこうしようと思うが手を貸してもらえないだろう

か」と云うようなご相談であればアークは出来る範囲での協力は惜しみません。しかし、自分は何もしない、出来ない（これは気持ちの問題でしょう。本当に助けたいと思う気持ちがあれば何か出来ることはある筈です）けど可愛そうで気になるからそちらで何とかしてやってほしい。……このような人達が少なくなければいいのは誠に残念なことです。

私事で恐縮ですがこんな事がありました。いつも散歩に行く公園で顔見知りの犬仲間4、5人が1匹の小犬を囲んで何やら話し合っています。「可愛そうに迷子か捨て子らしい」とのこと。そのとき私は気の荒い大型犬を連れていたので近寄ることが出来ず早足に通り過ぎましたが、気になるので後から再び行ってみると、思った通り夕闇のせまった公園に人影は無く、小犬だけがベンチの前にボツンと取り残されてクンクン泣いていました。みんな、可愛そうだの何のと云いながら誰一人として保護した人はなく、結局は小犬を置き去りにして自分の犬だけ連れて帰ってしまったのです。（この小犬はアークを通じてとても良いお家にもられ、東京で幸せに暮らしています。）また別の日、同じ公園で近所の奥さんがウロウロしており、私を見ると近寄ってきて、「あそこに小犬が捨てられているので気になって帰れない。誰か連れて帰ってくれないかと思ってずっと見ていたのだが…」お家で飼ってやれば？という、うちには1匹いるので飼えないとのこと。しかし、そこの家はシニアの柴犬が1匹いるだけ、庭も広い1戸建ての裕福で家族も多いお家なのでもう1匹位飼うことは可能だと思うのですが、飼えないの一点張り。仕方ないので私が連れて帰ると云うと2頭の大型犬を含め5頭もかかえているのを知りながら「ああよかった。これで安心一件落着いたわ。」

いいえ、とんでもない。そちらは一件落着でも引き取った方はこれから始まりなのです。まづ健康診断、血液検査、ワクチン接種に不妊手術。そして毎日の餌やりと運動、心身のケア。それから里親さがし……運良く貰い手が見つかったとしてもその環境になじむかどうか、いつまでも慣れなかつたり逃げ出して行方不明になるケースもあるのでしばらくは不安で一杯。何ヶ月か経って里親さんから「家族の一員として元気に暮らしています。」という写真同封のお便りを戴いて始めて



「一件落着」となるのです。不幸な境遇にいる動物を見つけて可愛そう、と口で云うのは簡単ですし、又そう云う人は大勢います。しかし、その動物を救うために実際に何らかのアクションを起こす人となると、かなり数が少なくなってしまうのは残念ながら事実のようです。

年配の方はご記憶があるかと思いますが、往年の美人女優デボラ・カー主演の「お茶と同情」という映画がありました。大学の寄宿舎の舎監夫妻と学生との交流を描いた物語ですが、こまめに寄宿生の面倒を見ようとする心優しい妻に舎監はこう云いました。「学生にはお茶と同情だけを与えてやればよい。」

しかし、路頭に迷っている犬や猫にただ同情を与えても何の救いにもなりません。彼等が必要としているのは迅速な保護と適切な心身のケアです。そして、その第1番目の保護者は彼等を最初に見つけ、何とか助けたいと思ったあなたです。アークはいろいろなアドバイスや、空室があれば期限を限った一時預かり等、側面からのお手伝いは出来る限り致しますが、主役はあくまでもあなた自身であるべきです。

1匹の動物を保護し、幸せに暮らせる家庭を見つけてやることは時間的経済的にも多くの負担がかかります。誰もが簡単に出来るというわけではないかもしれませんが、しかし自分に出来る範囲の努力はするべきです。そして何人かの同志が協力すれば決して不可能なことではないと思います。そのためには普段からいざというとき助け合える仲間を作っておくことが必要でしょう。あなたに出逢い、あなたが手を差し出してくれるのをワラにもすがる思いで待っている小さな命を救うためにあなたの労力を惜しまないで戴きたいと思います。